

父親してますか？(父親の育児参画)

コラム

父親と母親の違いを出産や母乳といった生物学的なもの以外で考えていくと、「心構え」という点が大きく異なります。

もちろん、母親と同じかそれ以上の「心構え」を持って、育児をしている父親もいます。

しかし、約10か月、胎児と過ごした母親の育児や家事に対する「心構え」に多くの父親は遅れをとっているのではないのでしょうか。

「いつも妻や子どもを気にかけており、何かあればすぐに駆けつける」「仕事は効率よくこなし、生活にメリハリをつける」また、家にいる時は「今、できるベストを尽くす」という「心構え」を自然に持ちながら、父親を楽しんでいきたいですね。

「忍夫」→「認夫」→「任夫」

子どもができるまで、育児や家事に関心があまりなかった父親にとっては、最初は妻の意見をじっくり聞き、言いたい事があっても、じっと忍ぶ夫「忍夫(にんぷ)」からスタートします。そして、育児や家事を手伝いではなく、“主体的に”することで、ママに認められる「認夫(にんぷ)」を目指します。

この積み重ねから、育児・家事をバランスよく任せてもらえる「任夫(にんぷ)」へと進み、父親も家庭内の仕事を積極的にすることで家族の幸せにつながる、ワーク・ライフ・バランス (Work Life Balance) のとれた素敵な家庭となります。

父親に子どもや家事を任せている時間でも、心のどこかで母親は「どうかな。大丈夫かな」と気にしている場合が多いです。逆に母親に子どもや家事を任せている時間に、父親は「大丈夫かな」と思うことは少ないでしょう。

大丈夫という安心感を与えずに、父親が育児や家事をしても、母親は、父親がしていると感じにくいのではないのでしょうか。逆に、安心感を得た母親は、父親に任せているからこそ、自分の時間に集中したり、気持ちをリフレッシュしたりできるでしょう。

父親の育児・家事は、形から入ることも多く、この安心感にたどり着いていない場合が多いと感じます。

父親として母親に安心感を与えるにはどうすれば良いかを考えながら育児・家事を楽しむことで、家族の笑顔を増やしませんか？

